

郷原信郎著「思考停止社会 - 『遵守』に蝕まれる日本 - 」

講談社現代新書、講談社 2009年2月20日刊を読む

「真の法治社会」をめざして

1. (1) 私たちは、法令や「偽装」「改ざん」「隠蔽」「捏造」などの言葉の前に服従を強いられる「遵守」の世界とそこでの思考停止状態から、まず脱却しなければなりません。  
  
(2) その上で、めざしていくべきは、法令を中心にして市民が理解し合い協力し合う「真の法治社会」です。  
  
(3) あらゆる分野の問題について、立場の違いや専門知識の有無の違いなどを超えて、関心を持つ市民が共通認識を持つことができるようコミュニケーションを図り、対等に話し合い理解し合うフラットなコラボレーションの関係を拡大していくことです。  
  
(4) そこでは、関連する多くの社会的要請の相互関係を把握し、法令や社会的規範との関係などを的確に整理することが必要です。  
  
(5) このような市民のコラボレーションの関係の中で、市民が法令を大切に使いこなすサポートをする役割を果たすのが、「広い意味の法律家」です。
2. (1) 世の中には、重罪を犯した犯罪者の処罰や感情的な対立を背景にした民事紛争など、「法令」の厳格な適用と遵守という司法固有の機能によらなければ解決困難な問題も存在します。  
  
(2) そういう問題解決に特化してきたのが「旧来の法曹資格者」です。
3. (1) しかし今、日本の社会で直面している問題の多くは、そうではありません。  
  
(2) そこで必要なのは、問題の背景になっている状況を正確に認識し、価値観を共有することです。  
  
(3) 食品をめぐる問題についても、建物や構造物の性能に関する問題、年金をめぐる問題につい

ても、根本的には、それがどういう問題なのかが関係者や市民に理解されていないために誤解が生じ、それが不信の連鎖につながっているのです。

(4) 企業・官庁と消費者・国民との間に健全なコミュニケーションを図っていくことが、相互の信頼関係を取り戻すことにつながるはずです。

4. 個人個人が、そして、企業、官庁、各種団体などあらゆる組織が、「社会的要請に応えること」に向けて、法令やそれをカバーする社会的規範を、大切に使いこなしながら、力を合わせ生き生きと活動していく「真の法治社会」をつくっていくこと、それが、21世紀の日本が社会の活力を取り戻していく唯一の道ではないでしょうか。

#### [コメント]

理科系出身の元検事で、今は弁護士・大学教授を努める郷原先生の法と社会、人間のあり方、基本的な考え方、「真の法治国家」を示す好著。

法的前提はコミュニケーションによる価値観の共有という視点は素晴らしい。

是非、皆で勉強したい。

- 2010年6月11日 林明夫記 -